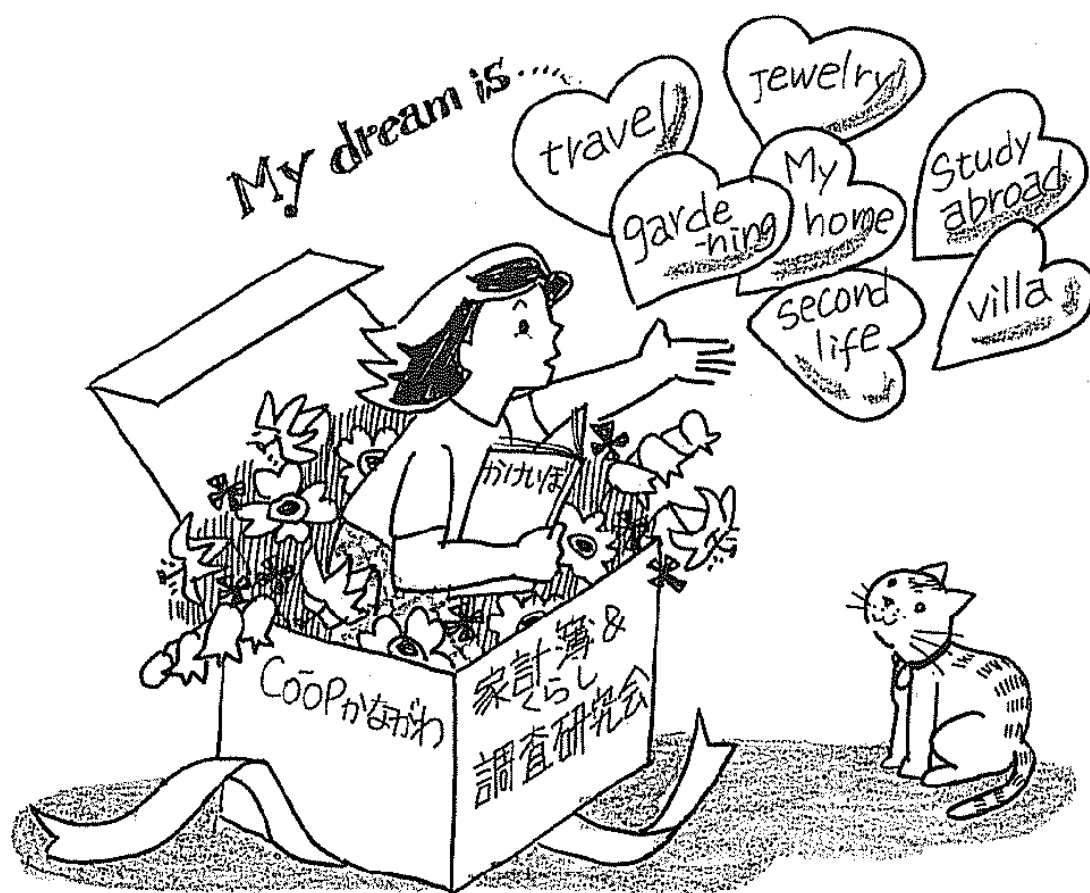


2007年

家計簿のまとめ



家計簿・暮らし調査研究会

coop
コープかながわ

2007年 家計簿のまとめ



2007年の家計簿集計ができました。今年の2月に送られた家計簿モニターの皆さんの年間集計と比較してどこが同じでどこが違うか、確認してみてください。

コープの「家計簿集計」では、

[総平均]: 合計数を提出者数で割った値

[記入者平均]: 合計数を記入者数で割った値

[1ヶ月当たりの平均]: 年間の合計を12ヶ月で割った値を表しています。

「給与」「年金」は、税金や社会保険を引く前の総額です。

◆家計簿は家計管理の必需品

提出者は、全体で約5%減少、特に30代の減少(-23%)が目立ちます。提出者の世代構成は図1のとおり、30代が27%、40代が35%で、住宅ローンや教育費負担が多い世代の家計管理に家計簿を役立てていることがうかがえます。

※家計簿提出者の特性(表1)

家計簿提出者の世帯主の職業は20代~65歳未満のグループでは会社員が78%、公務員を含めると86%が給与所得者です。

表1

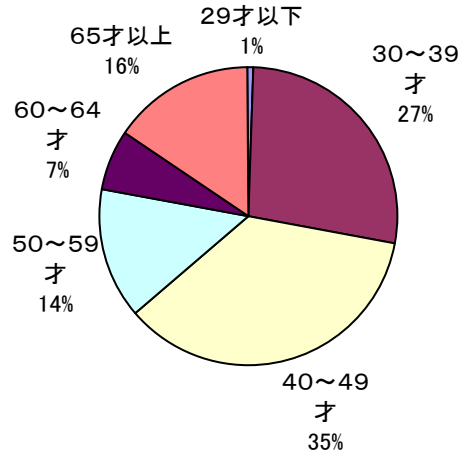
平成19年4月 内閣府家計簿調査-勤労者世帯[横浜市]		家計簿提出者
世帯数	80世帯	648世帯
世帯人数	3.34人	3.6人
配偶者のうち女の有業率	31.3%	40.1%
世帯主の年齢	48.3歳	48歳
世帯主の収入	395,199円	389,280円
配偶者の収入	26,488円	24,810円
持ち家率	65%	64%
うち住宅ローンを支払っている世帯の割合	35%	70%
消費支出	413,464円	409,206円

◆繰越金を増やす(図2)

2007年の家計簿で一番目を引くのは、どの世代も「繰越金・貯蓄」を増やしていることです。提出者の構成比は毎年異なるので、各年の平均を単純に比較はできませんが、30代~50代の平均年齢はほぼ同じなので、試みに5年前の2002年と世代ごとの比較をしてみました。

収入に占める各費目を2002年と比べてみると、どの世代も繰越金を増やしています。特に50代の増加が目立ちます。

図1 提出者の年代構成

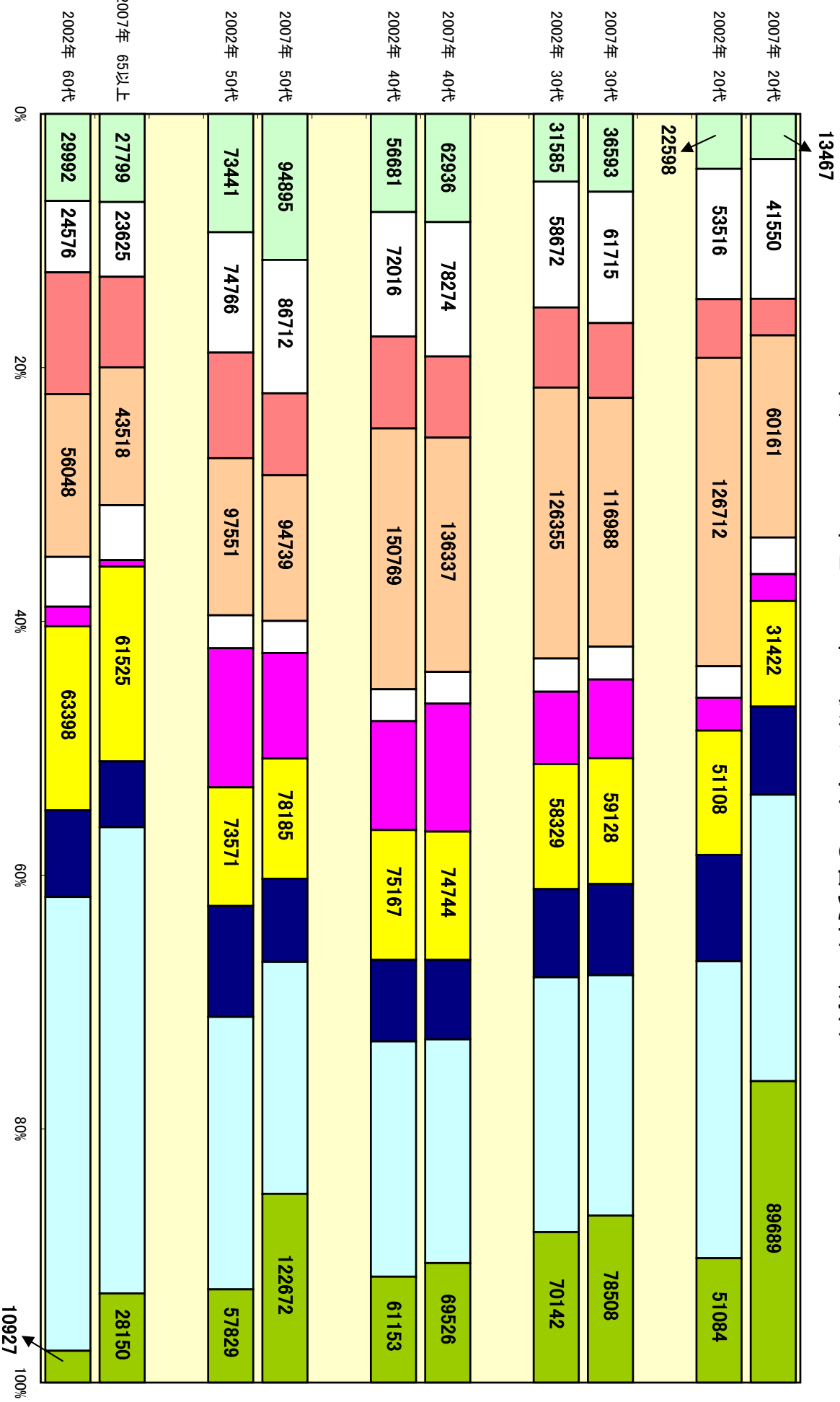


これは内閣府が調査した家計調査の都市勤労者(横浜市)と比較してもほぼ同じ傾向です。異なる点としては、コープの家計簿提出者には住宅ローンを組んでいる世帯が多いことです。住宅の64%が持ち家で、そのうちローンを組んでいる世帯は、70%(30代では83%、40代では71%)と高い率にあります。

29歳以下は、提出者数が極めて少ないこと、60歳以上は2006年から集計の方法を変えたことなどから直接は比較できませんが、繰越金の増加には公的年金や医療保険など社会保障制度が揺らぎ、将来への不安が高まっていることがうかがえます。

費目別では、税金や社会保険料が上がり、私的保険や住居費が抑えられています。高校、大学などの教育費がかさむ50代が教育費を抑えているのも特徴です。

図2. 2007年と2002年の収入に占める各費目の割合



※データレベルが表示されているのは、左から「税金」「社会保障」「住居費」「食費」「繰越金」です。(単位:円)

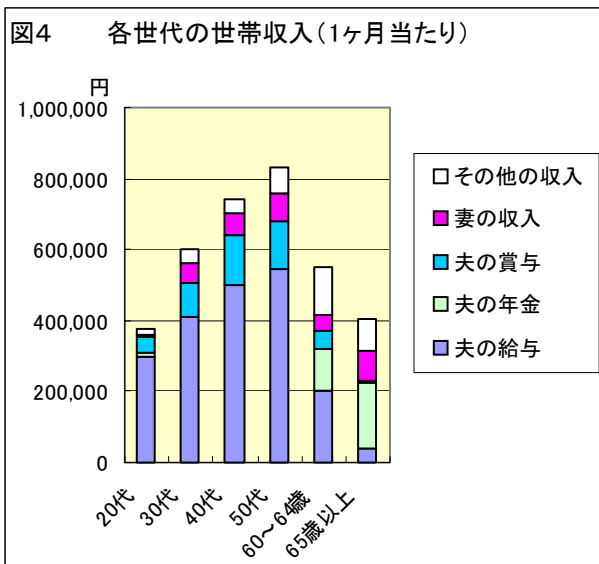
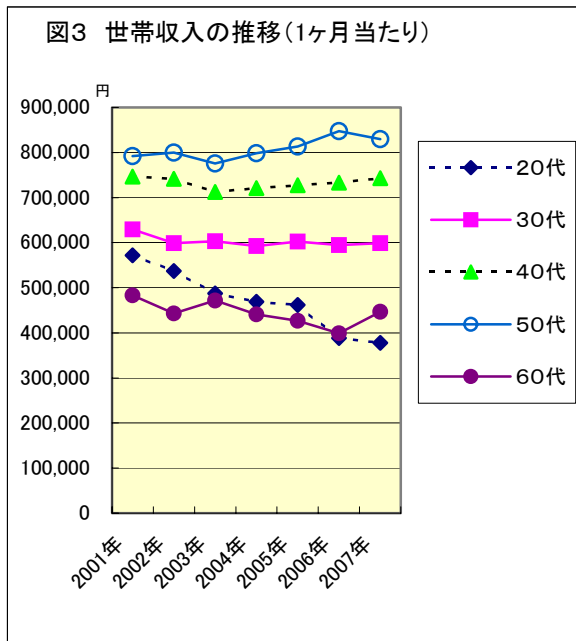
◆**上がらない収入** (図3. 4. 5)

世帯収入は、20代～50代の世帯ではほとんど伸びませんでした。ただし年金世帯では、夫・妻ともに2006年より年金収入は約1割増え、年金世帯の収入がはじめて20代の収入を上回りました。国民年金の基本支給額は減額されていますが、現在の年金制度が確立して保険料を40年間支払った人が受給者になってきているためと思われます。

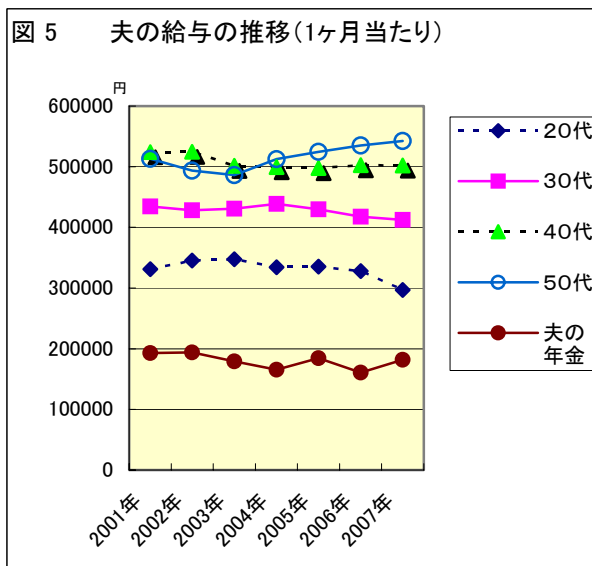
20代、30代の収入が上がらない原因に非正規就労の広がりも考えられます。

20代の世帯収入が大幅に減少しているのは夫の給与の減少もありますが、提出者世帯の妻の収入がないことも大きな要因のひとつです。

一方で30代・40代・50代・60代は妻の収入(妻の給与、年金、パート・アルバイト料)が伸びています。



※このグラフの「その他の収入」には、自営業の収入、同居の家族からの収入、企業年金・個人年金、利子・配当、保険の満期金などが含まれています。「妻の収入」には妻の年金が含まれています。



◆**増える税金・社会保険**

収入がほとんど横ばいにもかかわらず、税金や社会保険料は伸び続けています。(図6. 7. 8)

特に60代の税金は2005年からの**老年者控除が税負担の適正化の下に漸次廃止されたので大きく跳ね上がりました**。(これまで非課税であった年金250万円の世帯についても3.3万円が課税されるようになりました。)また、**所得税よりも、固定資産税の占める割合が高いのも、60代の特徴です**。



社会保険料についても、65歳以上の第1種介護保険料や医療保険制度の見直しにより、負担は著しく増えています。(図9.10)

日本の税金や社会保険料の水準はヨーロッパ諸国に比べるとまだ高くはありませんが、高齢社会の中で、負担と受益について考えるときのようなようです。

図6 2001年を1としたときの収入の推移

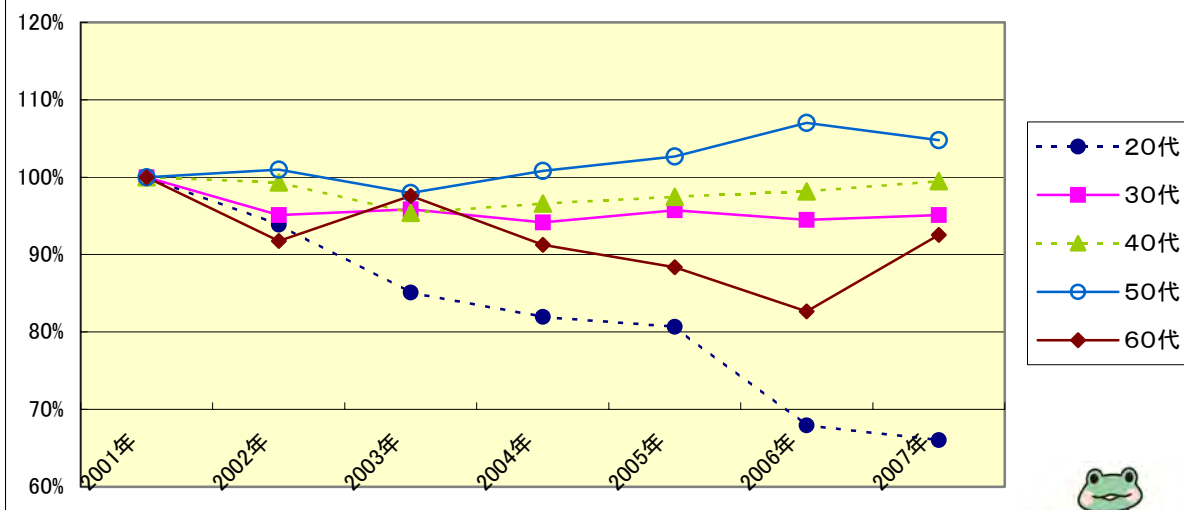


図7 2001年を1としたときの税金の推移

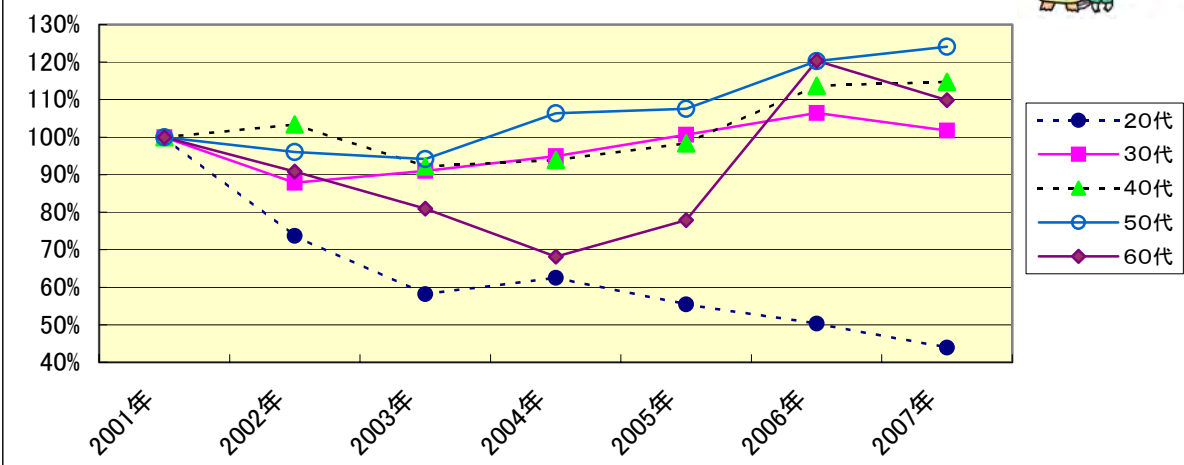
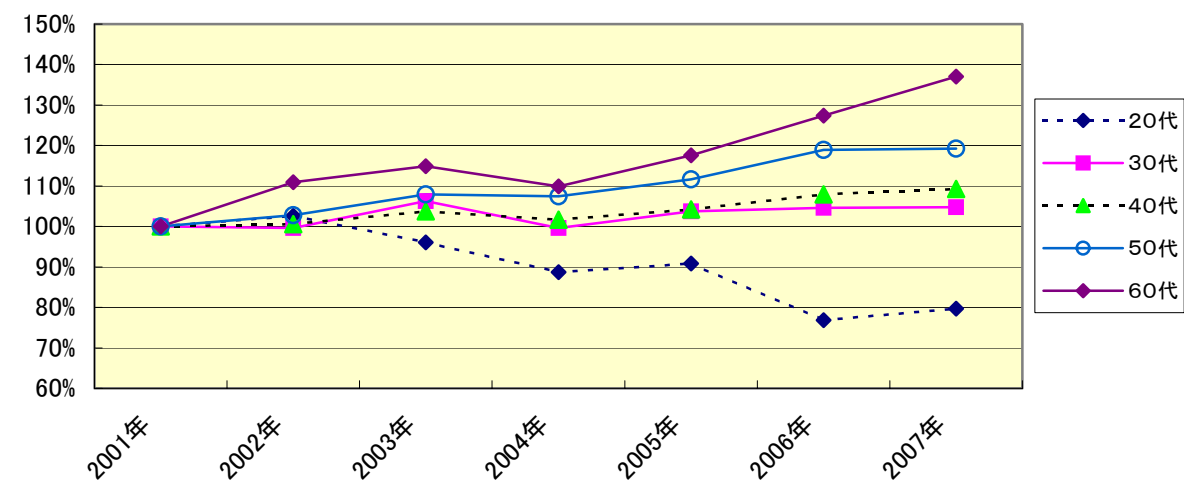
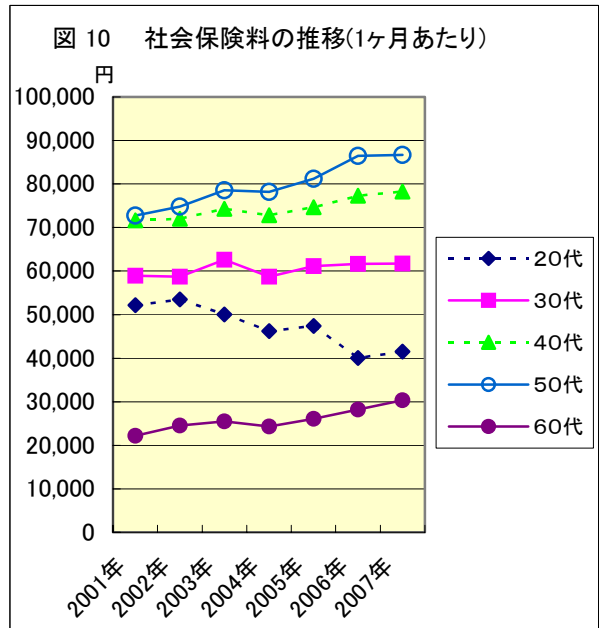
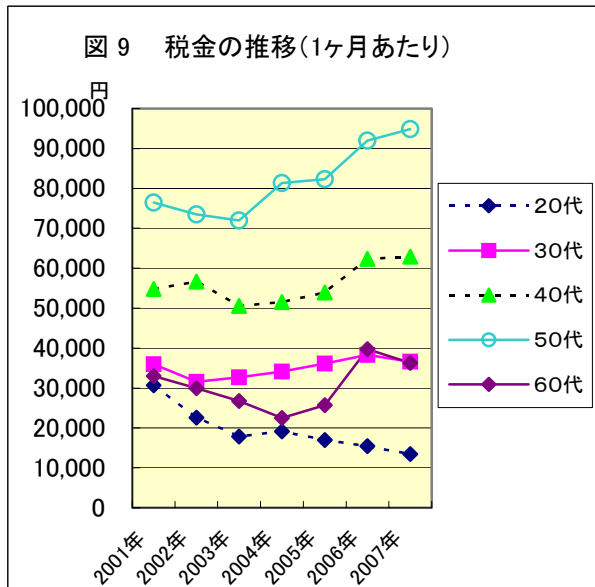


図8 2001年を1としたときの社会保険料の推移





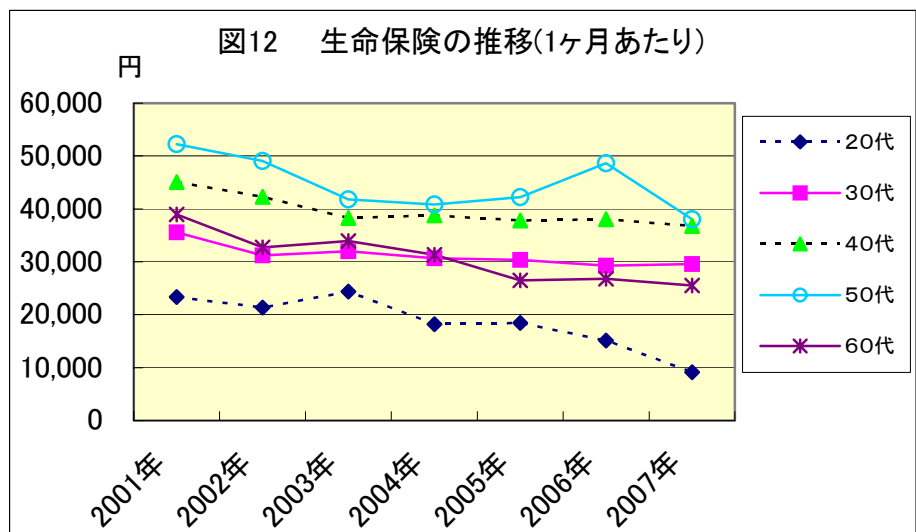
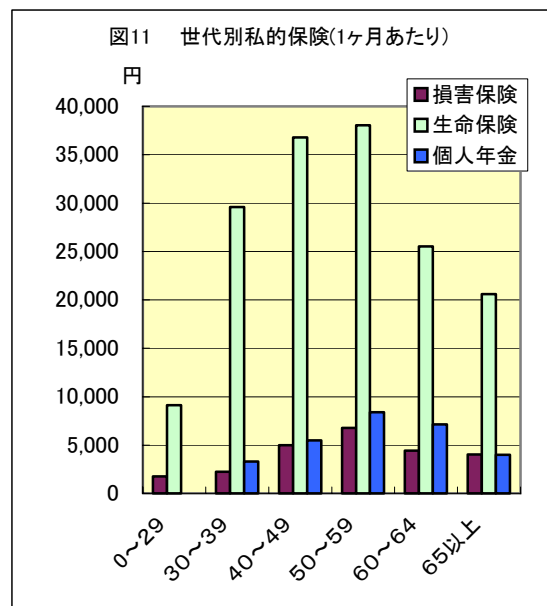
◆私的保険料 (図 11. 12)

社会保険を補うものとして私的保険は家計の中でも大きな支出の一つとなっていますが、全体的には減少傾向にあります。なかでも生命保険は2001年以降保険の見直しがすすんでいるでしょう。保障の内容にも変化が現れているのかもしれない。学資保険や、養老保険、医療保険、ガン保険なども生命保険に分類されます。(ケガ保険は損害保険に入ります。)

50代の「生命保険」は今年大きく減少しましたが、数年間の推移を見ると昨年の数値は一時的であると見受けられます。一括払いのケースが増えたなどが要因として考えられます。

生命保険への加入率は世代間で差はあまりなく約90%となっています。

個人年金にはさまざまな商品があり、老後資金を考える50代にとって選択肢の一つになっています。加入率は30代では18%ですが、50代では29%です。





◆抑えられる食費(図 13. 14)

2007年は「食育」への関心が高まった年です。収入が著しく減少した20代の平均家族数は3人で2001年とほぼ同じですが、食費は約63%減少しています。他の世代よりも加工食品の利用が少なく、手作りで食費を抑えていることがうかがえます。30代・40代も世帯収入の減少に合わせて食費を抑えているようです。食費は最も主婦の手腕を見せる費目かもしれません。提出者の声からも家族の健康と栄養バランスを考えながら、毎月の食費のコントロールに苦心する様子が見えてきます。

図13 食費の推移(1ヶ月あたり)

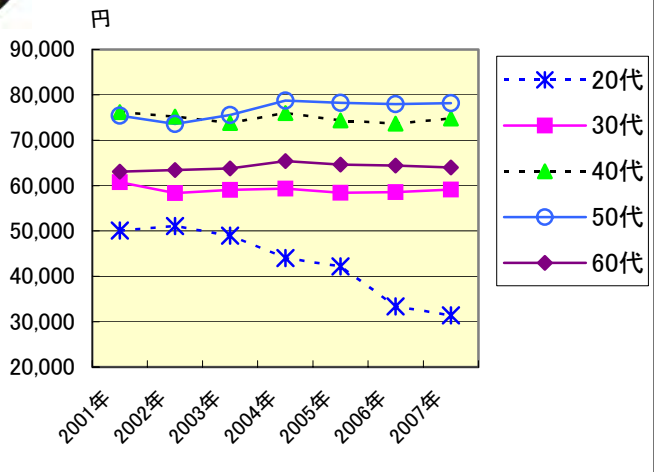
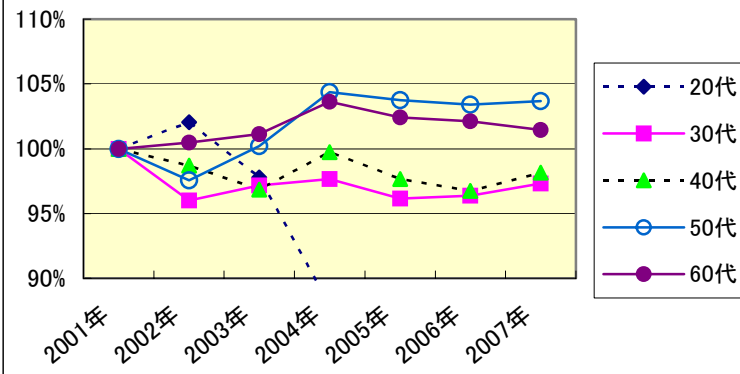


図14 2001年を1としたときの食費の推移



家計簿にひとつひとつの商品価格を記入しているKさんの家計簿では、食パンは2001年には128円でしたが、2005年には134円になり、2007年まで変わっていません。各スーパーの熾烈な価格競争のおかげかもしれませんが、小麦の価格が高騰している今年はどうなるのでしょうか。



◆住居費(図 15. 16)

支出の中でも高額な費目です。特に30代、40代にとっては最も大きな支出となっています。住居費は、住宅ローンや賃貸料、管理費、共益費などの「家賃・地代」と耐久消費財、家具、設備工事などの「その他」に分かれています。ローンの金利は過去最低になっているため、その分支出も抑えられています。住居費の総平均と住宅ローンの記入者平均と

はあまり差がないので、ほぼ賃貸料と同額くらいのローンを組んでいると思われます(表2)。50代のうちに繰り上げ返済をする人が多く、50代の住居費には変動があります。

60代になると持ち家率は94%、ローンを残しているのは13%となります。住居費の中心は「家賃・地代」よりも住宅、設備のリフォームや耐久消費財の買換えなど「その他」の支出が多くなっています。

図15 世代別の住居費(1ヶ月あたり)

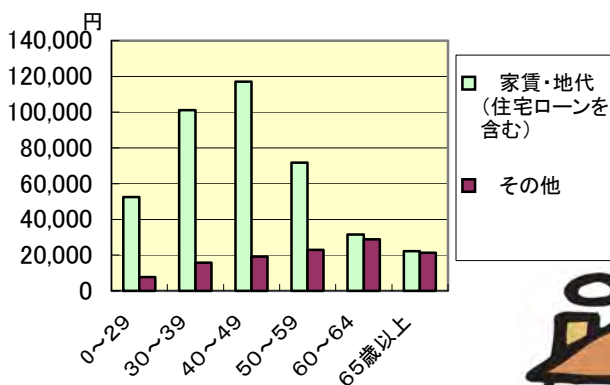


図16 住居費の推移(1ヶ月あたり)

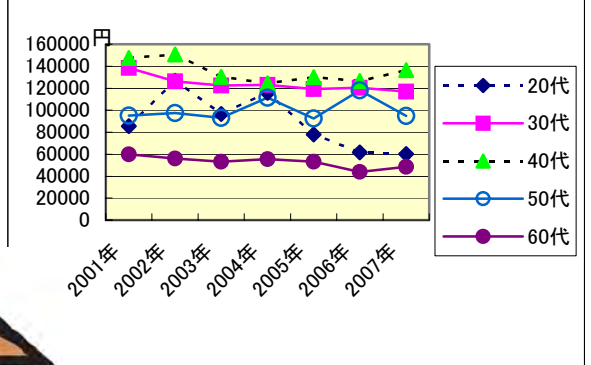


表2

	総平均	0～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上
住居費総平均)	105,312	60,161	116,988	136,337	94,739	60,366	43,518
住宅ローン返済額 (記入者平均)	131,613	55,638	115,734	148,959	123,986	101,788	112,850
住宅ローン件数	338	1	126	158	39	6	8

◆教育費(図 17. 18)

支出費目の中では総平均と記入者平均が大きく異なる費目です。子どもの状況によって支出は変わります。

2001年からの変化では、30代、40代では増えていますが、最も支出が多い50代では2004年をピークに減少しています。大学生を持つ世帯の割合が約1割減り、その他の子どもが約1.5割増えていることが大きな要因ですが、大

学進学への意識の変化も影響しているのかもしれませんが。

40代で教育費が増えている背景には、大学生を持つ40代の世帯主の割合が2004年に比べて5%増えていることによるものと思われます。

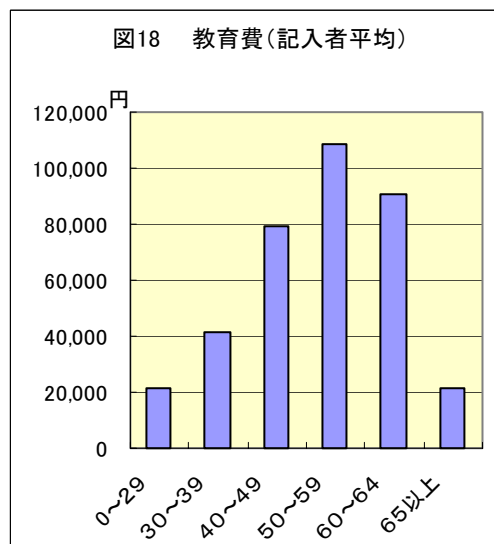
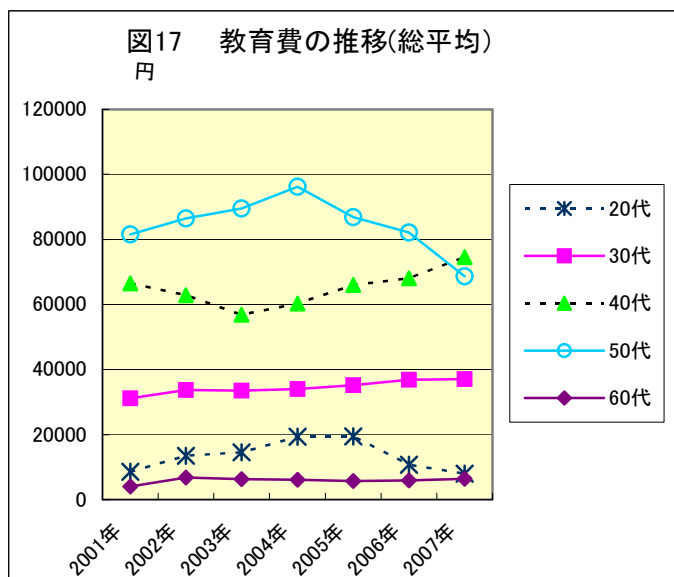


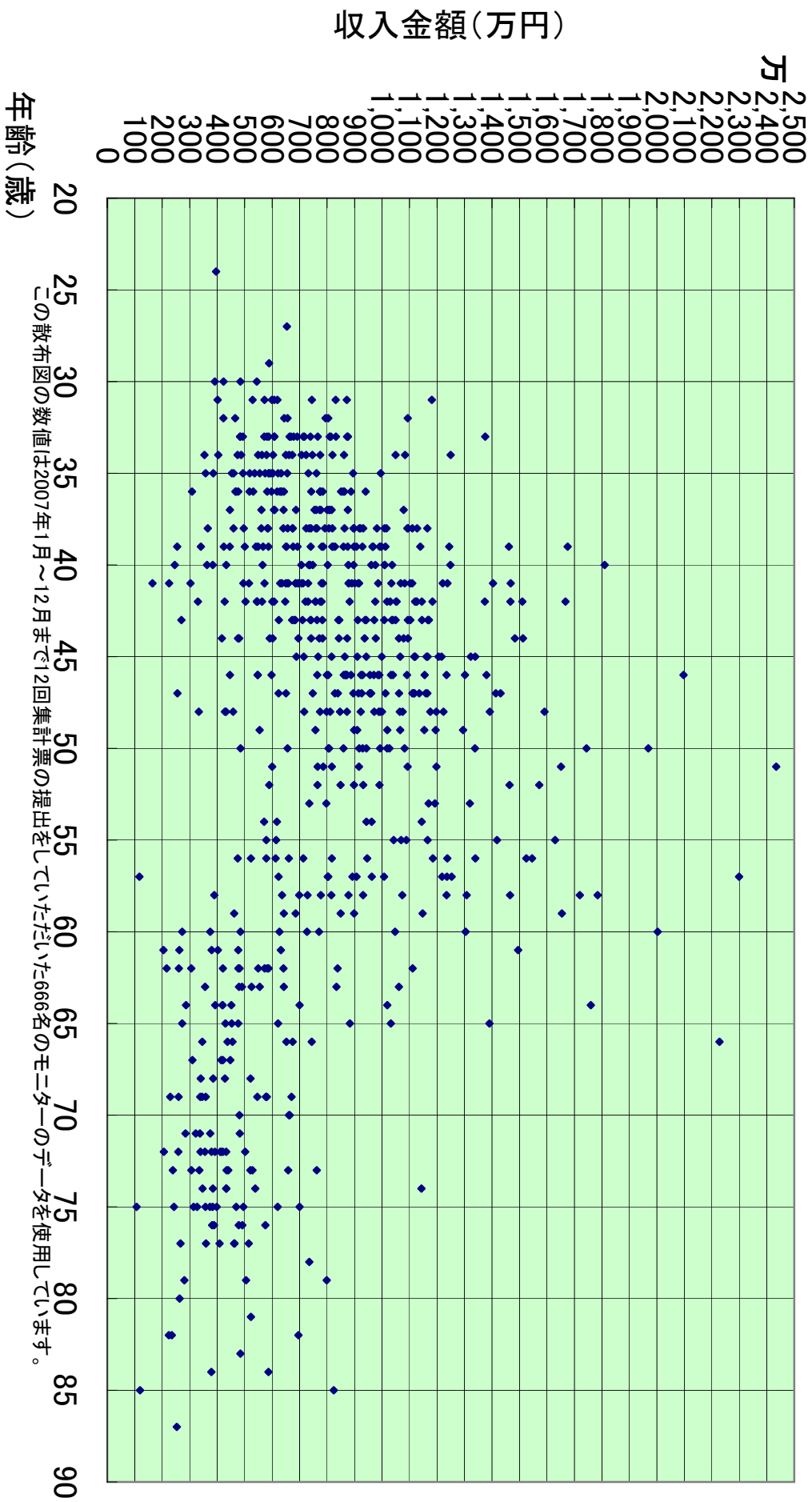
表3

子どもの状況	総平均	0～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上
乳幼児	311	4	229	76	1	1	0
小学生	453	0	158	274	21	0	0
中学生	142	0	11	108	23	0	0
高校生	80	0	0	52	28	0	0
大学生等	80	0	0	28	45	7	7
その他	111	0	0	7	67	37	2
全体件数	770	4	211	276	109	50	120

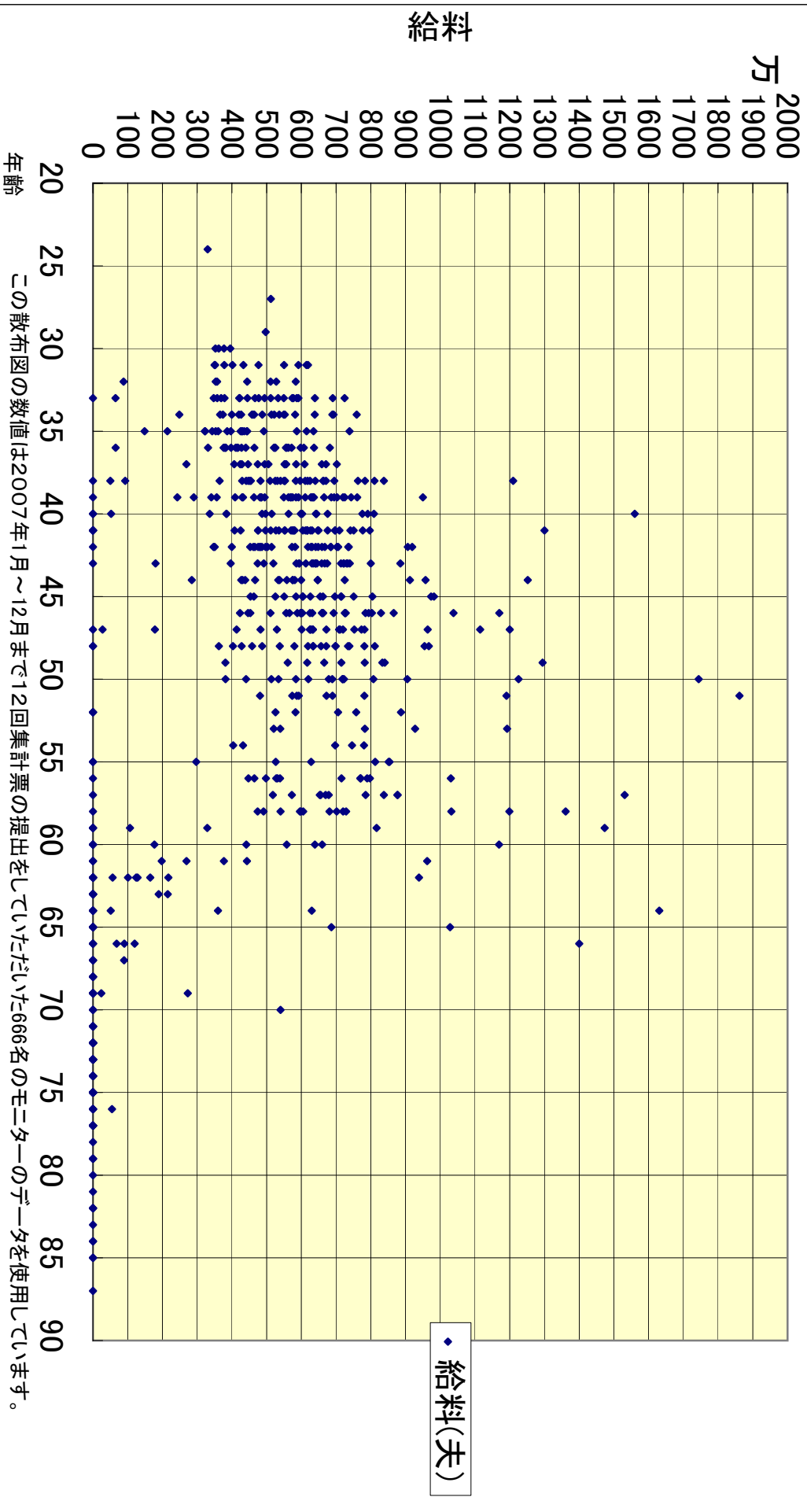
※「子どもの状況」の「その他」は、学校に行っていない生計を一にする子ども、同居の孫などが該当します。「その他」の子どもにかかる費用は「交際費」に計上します。

年齢別 収入合計

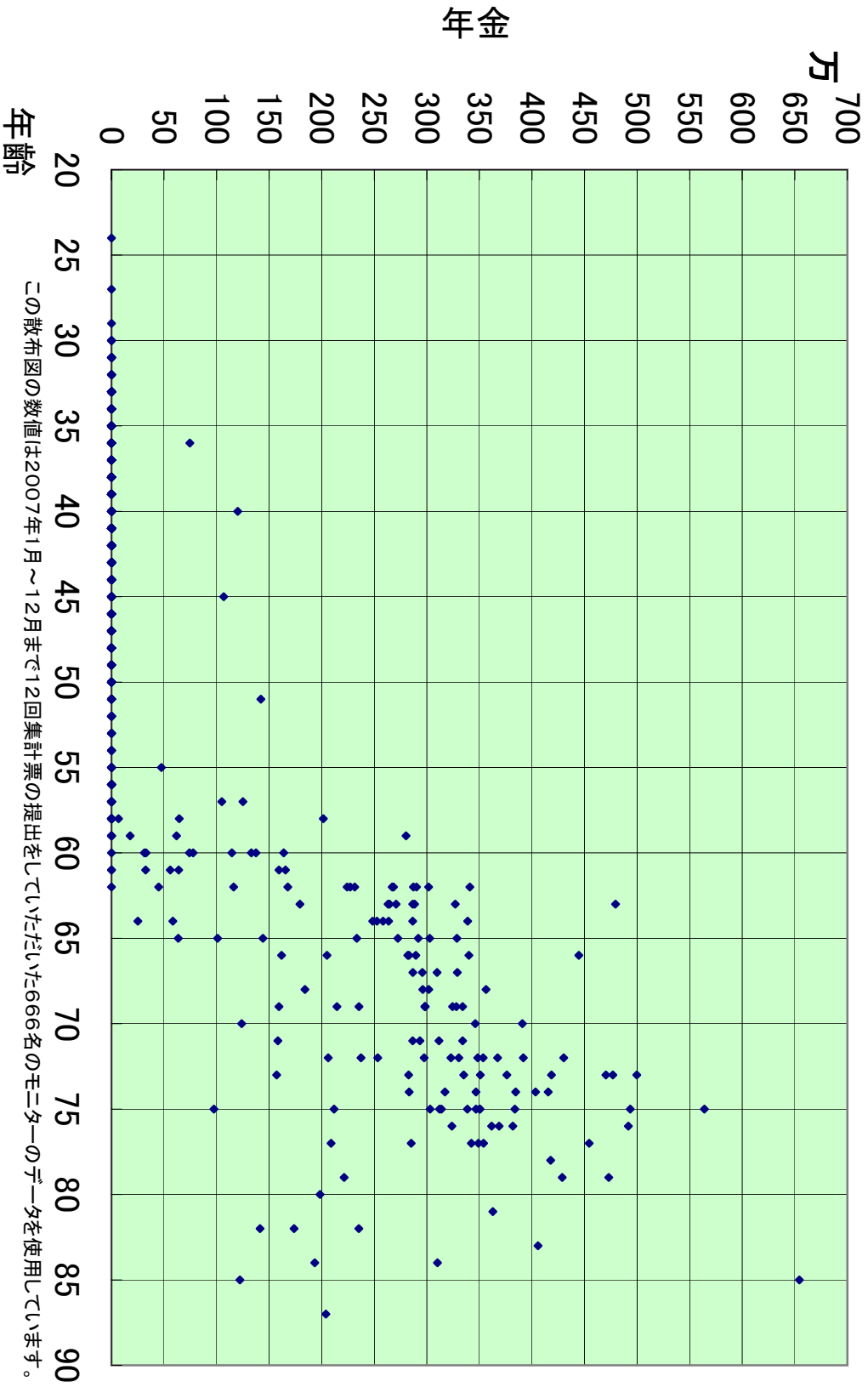
収入合計には給料(夫・妻)、賞与(夫・妻)、年金(夫・妻)、自家営業(夫・妻)、家賃地代、パートアルバイト(夫・妻)、同居家族からの収入、その他なですべての収入が含まれます。
税金や社会保険料を引く前の総額となっています。



年齢別収入-給料(夫)-



年齢別収入-年金合計



◆年金合計

～ 家計簿・暮らし調査研究会 年間活動報告～



☆毎月定例会を開催「家計簿ニュース」を編集し、発行。

2007 年

- ☆5月 ・ 5 / 17 「商品活動課」による野菜飲料のグループインタビュー。
- ☆6月 ・ 食育月間において全組合員対象に一週間の「栄養バランスアンケート」実施
・ 2006年の年間集計を作成し、モニターさんに配布。
- ☆7月 ・ 生協の家計簿「夢ページ」の改定版作成。（10月完成）
- ☆8月 ・ テレビ東京から“値上げ”についての取材を受け、「ワールドビジネスサテライト土曜日版」にメンバーが出演。
- ☆9月 ・ 9 / 22 公開講座「くらしの資金作り」と「家計簿交流会」の開催。
- ☆11月 ・ 11 / 6 「不二家」平塚工場を見学。“安全”を確認。
・ 11 / 30 日生協のヒヤリング調査（家計簿活動の事例と今後の方針）

2008 年

- ☆1月 ・ 1 / 9 「社会保障」について日本経済新聞の取材を受け、1 / 20 に掲載。
- ☆2月 ・ 2 / 2 テレビ東京「ワールドビジネスサテライト土曜日版」に“家計の見直し”について、メンバーが出演。
・ 2 / 22 公開講座「万一の時の基礎知識」と家計簿交流会の開催。（ハーモス相模大野にて）
- ☆3月 ・ 3 / 11 「家計簿つけ方説明会」の開催。
- ☆5月 ・ 朝日新聞の取材を受け、5 / 13 ・ 14 の生活面に掲載される。
・ 5 / 22 公開講座「万一の時の基礎知識」と家計簿交流会の開催。



【1年間の活動を振り返って】

(^-) 今年、一年間は全体で取材を受けたり、個人で取材を受けたりと取材が多かった1年でした。そして、そこから見えたのが家計簿から広がる世界でした。家計簿というと至極個人的なことのような気がしますが、社会、生活そしてその人自身にも繋がるのではないかと今は思っています。

(>_<) 私は活動の全てが初めてで、ずっと緊張の連続でした。会の皆さんが深く広く知識見聞があるのに、自分だけ役に立てていなくて、もどかしく、足を引っ張らないようついでいくのに精一杯の一年でした。今年は、もう少し役に立てるよう精進してまいります。それではまた定例会で。

(^_^) 定例会でのおしゃべりは楽しい。お得情報も満載でした。すべてニュースに書けなかったのが残念でした。

(^o^) マスコミ関係の取材が多かった一年間でした。登録者の方達の貴重なデータの積み重ねだと思えます。有難うございました。

(^-) 今年はテレビの放映と新聞の掲載など、マスコミの取材を受け、生まれて初めての経験をしました。家計簿・暮らし調査研究会での取り組みが色々な所で活用されて、嬉しかったです。